

国民の安全・安心を支える取組



多様で健全な森林づくりの取組



令和8年度 中部森林管理局の 重点取組事項

林野庁 中部森林管理局



国民の森林・国有林

National Forest
CHUBU Regional Office,
Forestry Agency

地域の森林・林業の課題解決に向けた取組



1 国民の安全・安心を支える取組

✓ 国民の安全・安心の確保と地域に寄り添った治山対策等を推進します

◆災害への迅速な対応

山地災害等の発生について、初動時の迅速な対応に努め、地域と連携しながら復旧に取り組みます。

○地域と連携した災害復旧

令和6年11月に栄村管理の林道施設で発生した地すべり被害に対し、地域からの要望を踏まえ、中部局は国有林において地すべり対策を、村は同施設の復旧に向け連携して対応しました。



○上高地における安全対策

令和6年7月に観光地「上高地」の六百沢で発生した土石流に対し、当面の安全対策として土石流センサー等を設置し、観光シーズン前に応急的な土石流対策工（強靱ワイヤーネット等の設置）を終えました。

昨年度から本格的な復旧工事を進めており、令和8年度も引き続き、早期復旧に向けて取り組みます。



◆災害予兆への対応

大規模な山地災害に備え、異常な天然現象の発生に対し、広域的・機動的な調査を実施します。

令和7年4月、岐阜県高山市高原川支流（オソブ谷）において土砂流出と濁水が発生したため、その後の集中豪雨による被害確認も含め、ヘリコプター調査を実施しました。

確認された民有林の山腹崩壊の状況などは、高山市及び関係機関へ情報提供しました。



◆通信環境の確保

「低軌道通信衛星」の活用により、山間奥地における通信手段の確保を図り、業務の効率化を促進します。

昨年度は通信環境を確保し監督職員の立会等を「遠隔臨場」により実施したほか、土石流監視カメラにも導入しました。



◆緑の守り手認定事業者制度

地域における森林土木工事の事業者の様々な役割や貢献を「見える化」し、広く住民の皆様にも認知いただけるよう、取り組みます。

治山・林道施設の整備や維持管理に加え、災害時には住民の安全・安心の確保を担うなど、地域を支える重要なパートナーとして、令和8年3月に「緑の守り手認定事業者」を認定しました。

認定項目

- ① 継続貢献
(治山/林道/治山林道)
- ② 災害対応活動
- ③ 国土緑化活動
- ④ ボランティア活動
- ⑤ 環境配慮
- ⑥ 労働安全
- ⑦ 人材育成
- ⑧ ICT施工

過去の取組実績をもとに認定



2 地域の森林・林業の課題解決に向けた取組

- ✓ 改正森林経営管理法等を踏まえ、国有林として、市町村への技術支援や、民有林と連携した施業等を一層推進します
- ✓ 国有林のフィールドを活用して、低コスト化・効率化の実証・普及等を推進し、現地検討会で得た成果を、林業事業者や行政関係者へ紹介します
- ✓ 地域の需要に応じた安定的な木材供給と需要の拡大に取り組みます

◆市町村業務を現場から支える支援プログラム

民有林行政での森林・林業に関する知識や技術の向上に貢献します。

森林経営管理制度や森林環境譲与税の導入により、市町村が担う森林整備は、ますます重要な役割を果たすようになっていきます。

中部局では、市町村担当者が“現場で使える知識・技術”を習得できるように、

「実務研修」、「現地検討会」、「森林整備箇所への同行」の3つの支援プログラムを提供します。

実務研修

現場に必要な基礎知識・技術を体系的に学べる研修プログラム

現地検討会等

最新の技術・実践例を“現場で見て、学び、共有する”場

森林整備箇所への同行

国有林職員と“同じ視点”で現場を見る実地サポート



森林環境教育実践者育成研修
現地実習



ドローン操作実技

◆地域特性に応じた技術の向上と普及

各種研修等を通じ、地域の特性に応じた森林・林業技術の向上を図るとともに、その普及に積極的に取り組みます。

令和7年9月には、林業架線技術等を有する技能者の後継者育成が課題となっていることから、請負事業体協力のもと、木曽谷の国有林において、長野県や近隣町村職員等を含めた現地研修を実施しました。

引き続き、市町村等の担当職員を対象とした各種研修を開催するとともに、地域が抱える課題に対応できる研修を検討します。



架線集材研修

令和8年3月23日、長野県の立会いの下、長野県認定管理捕獲技術者と北信署長との間で「国有林野内におけるニホンジカ等の捕獲に関する協定」を締結しました。

本協定は、ニホンジカによる森林被害の拡大が懸念される保科山国有林（長野県長野市）において捕獲を推進するとともに、国有林野を活用した認定管理捕獲技術者のスキルの維持・向上や、捕獲等に関する調査・分析を目的としています。



協定書を手にする代表者

◆ 実用化を目指した技術検証

新たな技術の導入に向けた検証を行うとともに、得られた知見の普及を行います。

・ 下刈回数の削減による省力化に向け、植栽後も効果を発揮する超緩効性肥料を添加した**スギのコンテナ苗（エリートツリー等）**などを植栽し、成長促進効果等を検証しています。**令和8年度は新たに岐阜署管内で植栽と初期調査を行います。**

昨年度に植栽した飛騨署管内の試験地では、民間会社のドローンによる苗木運搬のデモ見学や、電動クローラ型一輪車を使った資材運搬などの実地検証をしました。

・ 「滑らせて近寄らせない」新発想で**シカ等の忌避効果のある特殊樹脂ネット**について、**南信署、飛騨署、愛知所**で検証を進めています。

得られた効果や課題も踏まえ、**新たな技術の導入に向けた検証に引き続き取り組みます。**



最大搭載重量15Kgの林業用ドローンによる苗木運搬



エリートツリーを含む3種類のスギのコンテナ苗を植栽



特殊樹脂ネットの設置

◆ カラマツの種子供給に向けた取組

中部局管内に豊富なカラマツは、種子の豊凶の周期が5～7年とされ、苗木の安定供給には、着花状況の把握が重要です。

引き続き、長野県や種苗組合、林業事業体等が参加する造林技術検討会を主催し、**豊凶調査の精度向上を図るとともに、カラマツの種子採取が可能な候補地の周知や、連絡調整を一層進めて種子採取の際の手続きの円滑化に努めます。**



造林技術検討会でのカラマツの豊凶調査（東信署）

◆地域の需要に応じた安定的な木材供給と需要の拡大

豊富で多様な森林資源を有する特性を活かし、国産材の安定供給を下支えするとともに、伝統的建築物の修復用資材や大型公共建築物など、特殊用途へのニーズにも対応していきます。

高齢級人工林ヒノキについて中部局がブランド化した「**高国木曾(東濃)ひのき**」、**「段戸SAN」**(ヒノキ)、長野県と共にブランド化した**「信州プレミアムカラマツ」**を積極的にPRし、需要拡大を図ります。



木材供給の大ロット化を目的に当局管理の土場において、民有林の原木も共同で取り扱う



社寺仏閣等の屋根資材として檜皮を供給



高国木曾ひのき



段戸SAN (ヒノキ)



信州プレミアムカラマツ

◆樹木採取権制度の運用

民間事業者が一定区域を一定期間、安定的に国有林内の樹木を採取できる「樹木採取権」を設定し、効率的かつ安定的な林業経営に貢献します。

令和8年度は、岐阜県飛騨地域において、樹木採取権者の公募を行っています。



樹木採取権の設定を受けた林業事業者による木材生産(東信署)

3 多様で健全な森林づくり

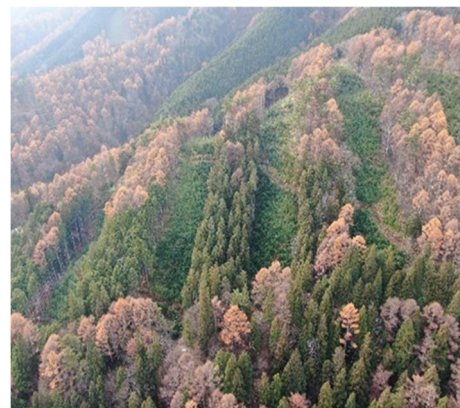
✓ 森林の有する多面的機能の発揮に向け、多様性の高い健全な森林づくりを推進します

◆ 生物多様性の保全に配慮した森林施業の実施

保護林などの**原生的な天然林**は、継続的なモニタリングを行い、厳格な保護・管理を図りながら、**森林の生態系ネットワークの確保等を推進**します。

人工林は、多様な伐期の設定、伐採面積の**縮小・分散**等を推進するとともに、面的な**複層林施業等の取組**を推進します。

社会的条件の良い**広葉樹林**は、**利用を通じた継続的な保全管理**等を推進します。



カラマツとスギが混ざり合った人工林において、带状に伐採箇所と残存箇所を配置（中信署）



イヌワシの狩場となる再造林地（東信署）

◆ 広葉樹林の森づくりの具体化

手入れを行うべき**広葉樹林**について、**モデル的に取り組む候補地**を岐阜県飛騨地域（宮・庄川森林計画区）に選定したところです。

広葉樹の出材への期待の高まりも踏まえ、広葉樹の森づくりの具体化に向け、令和8年度は伐採、更新の方法等に関する検討や樹種の判別、採材方法の検討など**広葉樹の取扱いに関する研修**を実施します。



飛騨森林管理署管内国有林

◆スギ花粉発生源対策を推進

・政府が策定した花粉発生源対策において、令和15年までにスギ人工林を約2割削減するとされたことを踏まえ、**スギ人工林の伐採と植替えを進めます。**

今後、**花粉の少ないスギの苗木**の需要が高まることが予想されることから、**安定調達に向けて関係団体等と調整を進めます。**



【一般的なスギ】



【花粉の少ないスギ】

写真：（国研）森林研究・整備機構 森林総合研究所 林木育種センター

◆シカ・クマ対策

ニホンジカについては、委託事業等による捕獲、猟友会等へのわなの貸し出しなどの取組を行うとともに、シカの習性を活用した**初心者でも高い捕獲効率が期待できる技術等を積極的に普及**します。

クマについては、クマ被害対策パッケージ等に基づき、**堅果類の結実状況調査を適切に実施し、出没傾向に関する情報の早期発信に努めます。**

また、人の生活圏への出没防止のため、地域のニーズを踏まえ、**関係市町村との連絡・調整を図り、国有林野内における緩衝帯整備に向けた取組を推進**します。



↑小林式誘引捕獲法：周りに餌をまいておくと採餌時にシカの前足が、わなにかかる仕組み

有識者から指導を受け、堅果類（ブナ・ナラ等）の結実調査を実施し、各県が公表する民有林の調査結果を補完（北信署）↓



←クマの隠れ場所となり得る藪の刈払いを実施し、見通しの良い林内を確保（富山署）

4 その他の取組・トピックス

◆ 伝統技術・文化の継承への貢献

斧による伐採手法である「三ツ紐伐り」^{みつひもぎり}は大きな樹木を傷めずに安全に伐倒できる伝統的な技法ですが、斧が日常的に用いられることのない現代では、次世代への技術継承が課題となっています。

中部局では「木の文化」を支える観点から、「三ツ紐伐り」の技術継承を目指す木曾・裏木曾の林業有志団体に練習木やフィールドの面から協力してきており、^{みそまはじめさい} ^{ごようざい} 令和7年6月の御杣始祭・裏木曾御用材伐採式^{※1}では、これらの団体に訓練を積んだメンバーが斧を振るって伐採行事が行われました。

また、令和8年5月に長野県上松町で予定されている^{かりみひしろぎばっさいしき} 仮御樋代木伐採式^{※2}でも「三ツ紐伐り」による伐採が行われる予定です。

※1 伊勢神宮の式年遷宮用材の伐り始めの祭り

※2 伊勢神宮の式年遷宮行事の祭事の一つ

この他、地域の協議会などと協定を結んで伝統的な行事を支える森林を守り育てる活動に対し、国有林をフィールドとして提供する「木の文化を支える森」などを通じて、**伝統技術・文化の継承に引き続き貢献していきます。**



三方向から斧で空洞を空ける伝統の「三ツ紐伐り（みつひもぎり）」



木の伐倒後に先端（梢）を根株に刺し、山の恵みに感謝する行事「株祭（かぶまつり）」



地元の長野林業大学校生徒による人力での伐採木の引き出し

◆木曽地域の森林計画の策定

令和8年度は、木曽谷森林計画区において令和9年度を始期とする5年間の森林計画を策定します。本計画区は、木曽ヒノキやカラマツをはじめとする良質な木材生産地に加え、中京圏の水源地や、森林浴発祥の地（赤沢自然休養林）を含む保健休養やレクリエーションの場として高い期待が寄せられており、それらに応えられるよう適切に管理していきます。

【木曽谷森林計画区の森林の概要】

森林面積：人工林が約3万6千ha、天然林が約4万5千ha、その他9千ha
樹種構成：針葉樹89%（天然ヒノキ等の木曽五木を含む天然林、ヒノキを主体とした人工林）

広葉樹11%（ナラ類、カンバ類）

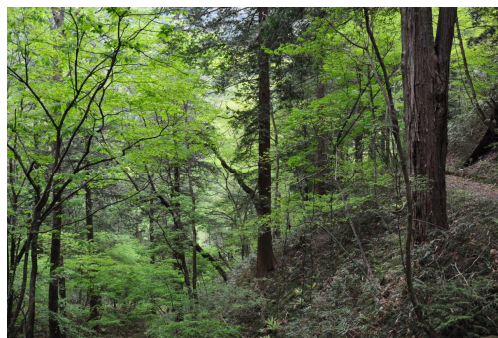
人工林のみの樹種構成：ヒノキ（66%）とカラマツ（27%）で約9割



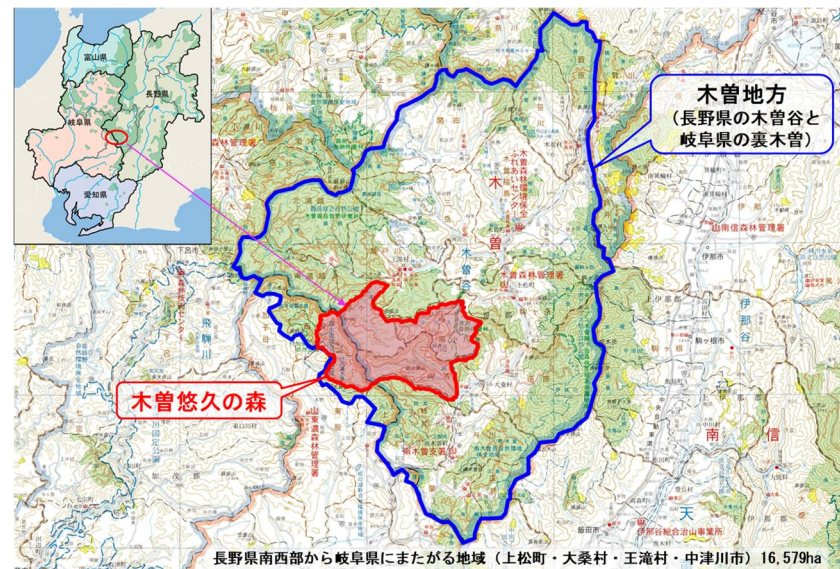
樹齢300年前後の天然ヒノキ



ヒノキ、カラマツの人工林



天然ヒノキ等の温帯性針葉樹と広葉樹が混交する森林



◆木曽悠久の森

木曽地方に現存する木曽ヒノキを始めとする世界的に貴重な温帯性針葉樹林をまとまりと連続性をもって保存・復元しています。

策定から10年が経過した「木曽悠久の森管理基本計画」の見直しを行い、保存と復元に向けた取組を、引き続き適切に進めていきます。

◆「昭和100年記念分収造林」（グリーンシェアリング）の開始

・林野庁では、昭和100年を記念し、本年、**全国の国有林**で「昭和100年記念分収造林」（グリーンシェアリング）を展開しています。

本取組では、地球温暖化防止や生物多様性保全等に貢献したいというニーズの高まりを踏まえ、幅広く法人等から募集し、針葉樹に加え、広葉樹の植栽についても積極的に推進しています。

中部局では、本取組の趣旨に賛同いただいた地域の住民団体及び木材製造業者2者との間で、分収造林契約の締結について合意しました。さらに**令和8年8月にも公募を予定しており、取組拡大に向けた情報発信を行ってまいります。**

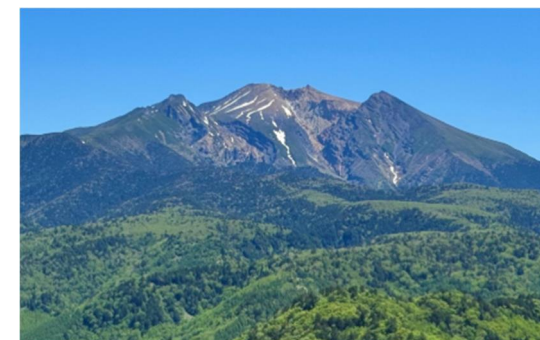


伐期が近づく分収造林地（東信署）

◆御嶽山国定公園の指定

令和8年4月10日、長野県と岐阜県の県境に位置する御嶽山とその周辺地域が、「御嶽山国定公園」に指定されました。

指定面積の約8割を国有林が占めており、国民の皆様にも本国定公園のテーマ「雄大な山の姿と多彩な自然と人の祈りが織りなす山岳景観」を楽しんでいただけるよう、**関係機関と連携してまいります。**



水無林道（木曽署）から望む御嶽山

◆中部森林管理局 公式X始めました

令和8年2月より、**公式X**を始めました。開かれた国有林として、広報やイベントの話題も含め、**広く国民の皆様にも中部局の情報・トピックスをお伝えしてまいります。**



令和8年度主要事業量（県別）

		単位	富山県	長野県	岐阜県	愛知県	合計	対前年度比
保 育	新 植	ha	—	367	72	22	461	131%
	下刈、つる切等	ha	—	745	336	102	1,184	111%
	間 伐	ha	4	1,527	911	145	2,586	119%
収穫量	主 伐	千m ³	8	223	172	35	438	105%
	間 伐	千m ³	2	330	203	29	564	107%
	計(立木材積)	千m ³	10	553	375	63	1,002	106%
立木販売(立木材積)		千m ³	9	202	209	36	456	104%
製品生産量(丸太材積)		千m ³	1	165	56	13	235	100%
林道事業	新 設	m	—	—	—	—	—	—
	改 良	m	20	1,242	3,418	71	4,751	178%
治山事業	溪間工	基	7	27	19	2	55	94%
	山腹工	ha	1	22	3	3	29	91%
	地すべり防止工	ha	—	309	—	—	309	106%

※1 事業量は、項目毎小数点以下四捨五入により、計が合わない場合があります。

※2 収穫量及び立木販売の単位は立木材積、製品生産量の単位は丸太材積です。

※3 立木販売には、分収育林、分収造林を含み、分収契約者の意向等により変更する場合があります。

中部の森林フォトコンテスト2025～受賞作品～



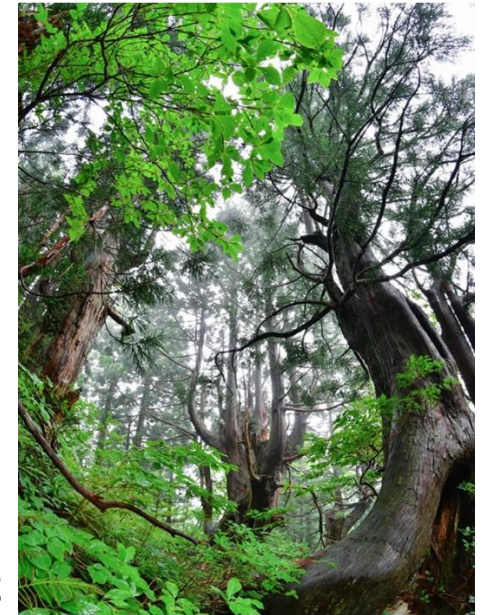
デジタル森林紀行

中部森林管理局のホームページでは、森林が織りなす美しい風景を気軽に楽しむことができるサイトを設けています。

デジタル森林紀行への
アクセスはコチラ→



「空師（そらし）」伊藤隼己



「太古の記憶」水野敬雄

※本年度（2026）もフォトコンテストを開催します。詳細は後日公表します。



国民の森林・国有林

林野庁
中部森林管理局

お問い合わせ先

〒380-8575

長野県長野市大字栗田715番地5

TEL 050-3160-6507 (企画調整課)

<http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/>



名古屋事務所	〒456-8620	愛知県名古屋市熱田区熱田西町1-20	050-3160-6660
富山森林管理署	〒939-8214	富山県富山市黒崎字塚田割591-2	050-3160-6080
北信森林管理署	〒389-2253	長野県飯山市大字飯山1090-1	050-3160-6045
中信森林管理署	〒390-0852	長野県松本市島立1256-1	050-3160-6050
東信森林管理署	〒384-0301	長野県佐久市臼田1822	050-3160-6055
南信森林管理署	〒396-0023	長野県伊那市山寺1499-1	050-3160-6060
木曾森林管理署	〒399-5604	長野県木曾郡上松町大字正島町1-4-1	050-3160-6065
南木曾支署	〒399-5301	長野県木曾郡南木曾町読書3650-2	050-3160-6070
飛騨森林管理署	〒506-0031	岐阜県高山市西之一色町3丁目747-3	050-3160-6085
岐阜森林管理署	〒509-3106	岐阜県下呂市小坂町大島1643-2	050-3160-6090
東濃森林管理署	〒508-0351	岐阜県中津川市付知町8577-4	050-3160-5675
愛知森林管理事務所	〒441-1331	愛知県新城市庭野字東萩野49-2	0536-22-1101
森林技術・支援センター	〒509-2202	岐阜県下呂市森876-1	050-3160-6095
木曾森林ふれあい推進センター	〒397-0001	長野県木曾郡木曾町福島5473-8	0264-22-2122
伊那谷総合治山事業所	〒395-0001	長野県飯田市座光寺5152-1	050-3160-6075

(令和8年4月21日発行)